

a) こだわりに至る経緯：

新規就農から一貫して、家畜は本来ヒトの食料と競合しない飼料で生産するものという信念に基づき、副産物の利用や牧草を最大限活用し、また、そのような飼い方に適した畜種を選んで、穀物飼料の給与を抑えた肉牛生産を目指してきました。その結果として肥育する牛は英国原産のアバディーンアンガス種を選びました。ヘレフォード種の肥育や、肉質向上を図ってアンガス牛と黒毛和種の交雑(F1)牛を手掛けたこともありましたが現在は、赤身肉の特長を活かす肥育としてアンガス牛のみに取り組んでいます。飼料もF1の肉質向上を狙う上から、穀物飼料をポストハーベストフリー、非遺伝子組み換えの材料で調製して使って消費者ニーズに合わせた肥育をしたこともありましたが、現在は、原点に戻ってアンガス牛を100%道産飼料で肥育する体制に切り替えています。

b) 牛の品種と飼養頭数：アンガス種、アンガス交雑種、

育牛 100頭 繁殖牛 40頭、種雄牛 2頭、総頭数 150頭。年間肥育出荷頭数 50頭

c) 飼料原料・材料構成：牧草(乾草・サイレージ) デントコーンサイレージ、でん粉粕(規格外小麦)

d) 農地面積：放牧地 15ha, 採草地 47ha, 合計 62ha

e) 労働力：経営主 1名

f) 生産された肉はどこで手に入るか？

出荷はJAオホーツクはまなす経由、パルシステム産直；ふーどの牛肉。

「ナチュラルビーフ サクルーアンガス」精肉・加工品の直接販売の問い合わせは

直接、池田牧場へ、Fax. (0158) 29-2437 E-mail lonesome-cowboy.masataka@nifty.ne.jp

g) 写真、コメント

100%道産飼料による肉牛生産、それに適した品種としてのアンガス牛、堆肥の牧草地還元。まさに、「e-びーふ」の典型的な牧場です。派手な農家経営と云う訳にはいかないが、このようなこだわりの牛肉生産が多様性の一つとしてあり続けて欲しいものです。



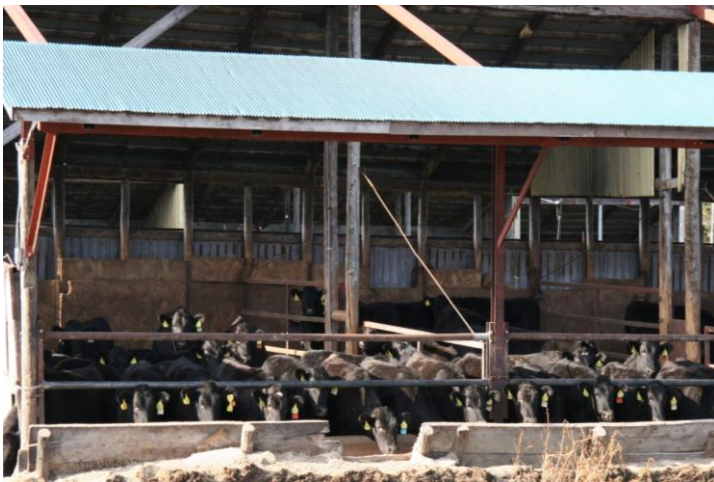
牧場主 池田 政隆 氏と子供さんたち



放牧地



親子放牧



育成牛舎



肥育牛舎